

2. 研究内容

子ども達にどのような力を付けたいか、目指す子ども像を明らかにし、それに向かい確かな教材や指導過程・学び合える場を工夫することで、誰もがわかってでき、考える子に育つだろうという仮説のもと、次の視点で研究に取り組む。①子ども達の実態を把握し、どんな力を付ける必要があるかを明らかにする。②教材の価値、基礎・基本のおさえを明確にし、効率的な手だてを工夫する。③自主的共同的な授業づくりを心がけていく。

3. 公開授業

①体育「フラッグフットボール」4～6年

相手の裏をかく作戦を考え、タッチダウンをねらうことを課題とし、リーダーが中心になって作戦を話し合いながら、主体的に練習を進めていった。まとめのゲームでは話し合った作戦の実行やフェイク(だまし)が見られ、タッチダウン(得点)ができた場面もあった。

②総合的な学習の時間「全校バンド」

全体で合奏した後、グループで課題を確認し、パート練習及び個人練習に入った。高学年児童が低・中学年にアドバイスをしたり、上手にできたことを認めている場面が多く見られ、子ども同士で意欲を高め合っていた。

まとめに各グループの成果を発表し合い、最初の演奏よりも息の合った演奏をすることができた。

4. 研究協議

体育では、フラッグフットボールの教材の有効性が話題となった。異学年集団で能力差があっても、作戦によってはどの子にも活躍の場があり、楽しさを共有できる良さがある。教え合い、練り合い、認め合いが見られた授業であったという意見が多く出された。総合的な学習の時間についても、子ども同士で教え合う姿が随所に見受けられたこと、高学年児童のリーダー性の発揮が十分であったとの意見が多かった。

成果として、子ども同士での教えあい、学びあいでの対話の仕方などが身に付いてきて、自分達で考え動けるようになってきたことが上げられる。一方、異学年で学び合う学習活動の中にも、各学年の発達段階に見合う目標の位置付けが今後の課題となっている。

第7分科会 標津町立薫別小中学校



1. 研究主題

「基礎・基本を身に付けさせ、一人一人の良さを生かす授業づくり」～地域に根ざし、確かな学力と豊かな心を育む学習指導の充実を目指して～

2. 研究内容

・指導過程の工夫(個に応じた目標を設定し、多様な考えや解決の見通しを持たせる学習課題を工夫する)・個に応じた学習指導(個に応じた学習指導を工夫し、多様な意見交流や人間関係を創造し、高め合わせる)・評価と指導の一体化(一人一人を的確に見取り指導に生かす)という3つの視点について具体的に徹底することにより、基礎・基本を身に付けさせ、一人一人の良さを生かすことができるという仮説を立て研究を進めてきた。

3. 公開授業

①小学校算数科

・2年生：買い物をした後おつりはいくら残るかという問題に挑戦。十の位がない場合の3桁の引き算について考えた。3名の児童は両替パターンを試行錯誤しながら答えを導き出そうと努力。コインを操作しながら考え、ホワイトボードにその考え方を書き、考えを発表し合った。

・5・6年生：5年生は多角形を三角形に分割することで、三角形の内角の和を利用しながら多角形の内角の和を求める学習を展開。児童3名が協力してまとめた表で、頂点の数や三角形の数の関連性に気付いた。6年生は複合図形の模型を使いながら、図形を分割したり求め方を工夫しながら体積を求めた4名の児童は黒板を使い活発な意見交流を展開した

②中学校総合的な学習の時間

月毎に調査した薫別川の魚の生息マップを資料とし調査結果について発表し合った。水温上昇により魚が増えたこと、魚が好む環境などについて等分かりやすい発表に努めていた。発表者と要点をまとめる記録係の分担が適切で焦点化した板書を見ながら疑問点や類似点について活発な議論を展開していた